

「赤レンガ倉庫、朝7時の非日常感を楽しむ」

2022年10月30日（日） 気温 晴れ

横浜マラソン2022 赤レンガブロックコース監察誘導 フルマラソン参加ランナー23000人



↑活動場所の横浜税関前（活動終了後に撮影） ↑終了後に赤レンガ倉庫前で記念撮影

1、3年ぶりのリアル横浜マラソン

2015年から開催されている横浜マラソン。2015年はスタート地点のランナー誘導、2016年は横浜駅周辺での案内表示板をリーダーとして活動させていただきました。その後私自身は6年ぶりの活動となり、横浜マラソン自体もコロナ禍等でリアル開催が2年続けての中止を余儀なくされ、待ちに待った3年ぶりの開催となりました。

かつては、リーダー研修、全体研修、リーダー反省会と研修も数回ありましたが、コロナ禍ということもあり、リーダー研修のみで一般のボランティアはオンライン研修のみでした。と研修に関しては簡素になっていました。

リーダー研修は10月15日と22日のいずれか、コロナ対策でオンライン研修も可で、私は15日に参加いたしました。全体研修の後に、各ブロックごとに分かれ、解散後に静岡県からお越しのMリーダーと下見に行き、アドバイスをいただきました。

2、前日下見

とはいえ私は基本的なことすらわかっていなかったもので、前日の夜に再度下見に行きました。資材の置き場の位置だけでなく、往路のみ、復路のみで使用する案内表示板があることを知りました。（復路は40キロ地点で「あと2キロ」という案内看板を往路で使用したら大変なことになってしまいます。）また道路の左車線のみが走路になるということ、トイレの位置、歩道は通行可か、交差点での歩行者迂回路、集合場所から配置先までの歩いての時間などを確認することは山ほどありました。

3、朝の静けさを感じながら

朝6時30分前に集合場所の赤レンガ倉庫前に到着しました。象の鼻パークも近い観光地なのですが、さすがに観光客らしき人はいません。とても静かで落ち着いた朝の静けさを感じ、非日常感を十分に味わいました。チーフリーダーとリーダーが打ち合わせをしますが、一般のボランティアの方たちからスマー

トフォン片手に集合場所を何度も聞かれました。中には集合場所を間違えてしまった方もちらほらいらっしゃいました。

赤レンガブロックでは班ごとに集まり、ミーティングを始めるのですが、こちらでもどの班なのかわからない方が10名ほどいらして、その方だけ集まっていたら、事務局の方にお任せしてようやく始めることができました。(引き継いでしまったので、わかりづらい案内文面だったのか、その方たちの勘違い等なのかはわかりませんでした。)

4、「この非日常の瞬間を味わって下さい」

私の担当する班は7コース3名(コース走路員2名、距離表示員1名)さらに100m先に8コース4名(コース走路員2名、トイレ案内2名)さらに100m先に9コース9名(コース走路員5名、横断歩道誘導員4名)と分かれるため先に全体説明をいたしました。担当は5km地点前後で通過予定時刻は8時45分からの1時間、急病人や、アクシデントなどあったらまずは自分の身の確保後に、警備員等に伝える、声出しや活動中の撮影禁止などを話しました。最後にこれから約2時間の非日常の瞬間を味わって下さいという私なりのメッセージもお伝えいたしました。

その後全員一緒に移動して、先にコースの方に地図を見せながら配置場所、コーンの設置場所、注意事項(左車線のみが走路で右車線は給水所、トイレの位置など)を説明して、次々コース、最後のコースという順番で説明が終わるのに20分くらいかかりました。またコースごとで自己紹介と配置場所を決めてもらうようにしました。

予定通り7時50分に交通規制が始まり、コーンの設置が始まり、右車線側では給水用の資材が運んでいるトラックからテーブル、飲物、紙コップ、バケツなどを給水担当のボランティアが手際よく準備を始めています。

5、ボランティアリーダーとして

「準備完了!」と思いきや、警備員の方から「この歩道、通行はOKですが、立ち止まっての観覧はOKですか?」と聞かれ、マニュアルにはそこまで詳しくも書かれておらず、近くにいた警察官に聞くと「そちらが決めることですから」との返事。(決して、杓子定規な返事をしたのではなく、主催者に対してのレスポクトにも感じました。)時間もなく先導車も来るのでNGと独断で決めました。ただし、立ち止まって観覧する方も少なく、妨害しそうな人もいなそうでしたので、黙認することにしました。

ランナーが続々と通過し始めますが、特に指示等することもなく、巡回だけをしていました。最後のランナーが通過すると、往路のみ使用した距離表示の看板を片付け、点呼、記念撮影を撮り、チーフリーダーに報告、後半の班リーダーに引き継ぎ、秋のヨコハマを跡にしました。朝4時半起床だったこともあり帰りの電車の中では爆睡!しかしこの達成感は格別でクセになりそうです。

6、改めてマラソンボランティアの魅力とは

横浜マラソンのボランティアは3200名募集で、場所を選ぶことはできますが(リーダーは不可)、役割を選ぶことはできません。そのため、リーダー含めて今まで全く同じ業務を同じ場所で活動したことがあるケースはまれです。

また、グループ参加を除き、ほとんどが初対面で、互いがどんなプロフィールなのかが分からないと思

います。そんな方たちが「横浜マラソンのボランティア」として、短い時間ですが一致団結するという非日常性が魅力なのではないかと感じました。

そのためリーダーとしてうまく立ち振る舞うことができるかがとても重要であると感じました。今回は特に問題ありませんでしたが、私も第2回の横浜マラソンで「職場放棄」されそうになったことがあります。難易度が高い業務や配置場所もあるので、ある程度の経験値がモノをいう世界かもしれません。そのためサブリーダーがいたほうが良いのではないかと思いました。リーダーもリーダーばかりしていると「リーダー目線」になってしまいがちなので、経験が豊富であっても他のマラソンでは一般ボランティアで活動してみて「自分がリーダーだったらこうする」と考えれば、引き出しの広さにもつながるのではないのでしょうか？

これからマラソンのシーズンが始まります。次回は一般ボランティアとしてマラソンの活動をしてみたいと思います。同じ班の皆さんありがとうございました。